

# human

No253

2013/5

医療を通じて人と人とのふれあいを広めるために  
ヒューマン(人)と名付けました。



「手作り人形」

救急指定・労災指定病院	さくら総合病院	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129 (0587)95-6711(代)
老人保健施設	さくら荘	愛知県丹羽郡大口町新宮1-96 (0587)95-6722
訪問看護ステーション	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8623
ヘルパーステーション	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8026
居宅介護支援事業所	あすかビレッジ	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内) (0587)95-8027
デイケアセンター	御 嶽	愛知県丹羽郡大口町新宮1-129(さくら総合病院2F) (080)5294-5728
有料老人ホーム	太郎と花子	愛知県丹羽郡大口町新宮1-10 (0587)95-0111



<http://www.ijinkai.or.jp>

E-mail: [info@ijinkai.or.jp](mailto:info@ijinkai.or.jp)

# 出会いから始まった私の医療人生

さくら総合病院 名誉院長 吉田 純

本年4月、当院「医仁会さくら総合病院」に名誉院長として就任いたしました。この機会に私の医療人生を振り返ってみました。私はこれまで脳神経外科医療を中心に、日本の医療とこれからを考え、社会が求める医学・医療を目指し、充実した毎日を楽しく過ごしてきました。そしてこの間、多くの人、多くの物、多くの社会と出会い、医療人として成長させていただき、また社会に貢献できたと思っています。

## 脳神経外科との出会い

昭和44年、全国に広がった医学部の学園紛争が収まりつつある時、私は田代勝洲先生が病院長を務めておられた第一赤十字病院に就職し、この年から始まった自主ローテート制度で外科を中

心に研修させて頂きました。ある時、外科部長に同行し仙台で開催された外科学会に参加しました。十分理解できない学術講演の中で、東北大学の鈴木二郎先生の宿題報告「脳動脈瘤300例」が心に残り、次の年に東北大学長町分院の鈴木脳神経外科教室に短期間でしたが、国内留学させて頂いていただきました。最前線の脳神経外科医療に参加することができたのは幸運であり、大変貴重な経験となりました。また同年、名大から岩田金治郎先生が赤十字病院に赴任され、脳神経外科を開設されました。勧誘されるまま参加いたしました。そこでは生死をかけた脳神経外科手術の醍醐味に感激する毎日、この時、脳外科医療を生涯のテーマに決めました。そ

して47年、初代脳神経外科教授として景山直樹先生が名古屋大学に着任されると、私は新医局員第一号として入局しています。

## 研究との出会い

帰局するやいなや、教授より京都府立医科大学の病理学教室、米沢猛教授の下で研究するよう命ぜられました。神経細胞の培養と電子顕微鏡技術を学び、続いて下垂体腫瘍の組織培養と分泌されるホルモンを測定、下垂体腫瘍の構造と機能の解析を行いました。学生の頃は臨床医になると考えていた私でしたが、突然、基礎研究の現場に飛び込み、医学研究の楽しさを知り、その後は基礎と臨床の両面より研究を進めることになりました。昭和51年には、米沢

教授の紹介でニューヨーク大学の病理学教室、クラブピオット教授の下へ留学することとなり、ここで脳腫瘍の化学発癌実験をする傍ら、毎週モンテフィオーレ病院で、近代脳外科の父であるクッティングや現代物理学の父と呼ばれるアインシュタインを解剖した病理学の秦斗、ジョンマーマン先生と私の生涯の恩師となりました。後継者の平野朝雄先生の病理診断セミナーに毎週参加しました。また、スローンケタリング癌研究所にも出かけ、後に愛知県がんセンター総長になられた高橋利忠先生よりご指導いただき、また同級生で後に名古屋市立大学の内科教授になられた上田龍三先生と共に腫瘍免疫学に関する研究を行いました。

## 国プロジェクト「遺伝子治療」 との出会い

帰国後研究テーマを探していたとき、当時の生化学分野の重鎮であり世界生化学学会、副会頭でありました応用生化学研究所の八木國

男先生らが「血液脳関門を通過する特殊ナリポソームの開発に成功した」との記事を新聞に発表されました。早速、景山教授からご紹介いただき、八木先生にご指導を仰ぐことになりました。新しい脳腫瘍治療法を開発を目指し、遺伝子導入効率の高いDNAリポソームの開発を行いました。このプロジェクトは、10年以上の歳月をかけ基礎研究から探索研究そして臨床研究へと進め、純国産技術を用いた日本独自の遺伝子治療法の開発となり、平成12年4月に臨床応用を開始しました。この国プロジェクトは教室の若林俊彦先生、水野正明先生や環研の妹尾久雄先生はじめ多くの共同研究者の支援と厚生省、文部省からの大きな基金、そして応用生化学研究所、製薬企業の協力による産官学連携によるプロジェクトになりました。その後、本事業は名古屋大学において「遺伝子・再生医療センター」、「バイオマテリアルセンター」の創設につな

がり、心臓移植に続く先端医療の道を開くことに貢献出来ました。

### 教授職13年での出会い

私は13年間、脳神経外科教授として名古屋大学で働かせていただき、多くの教官とともに、学部教育、脳神経外科専門医教育に携わりました。また50以上の関連病院、200名を超える同門の先生方とともに地域の脳神経外科医療を支え、そして名古屋大学の諸先生、延べ100名以上の教室員の先生方に協力していただき、バイオ治療（遺伝子治療、細胞免疫治療、分子標的医療等）、脳腫瘍の画像誘導手術など新規医療機器の開発、医療IT技術の開発による脳卒中の地域医療連携の構築等、先端医療開発に携わることが出来ました。

### 病院長としての出会い

名古屋大学を定年退職した後、幸いにも同級生であり名古屋医療センター院長の堀田知光先生のご紹介に

より東名古屋病院の院長に就任致しました。ここでは両病院間を連携させる医療群構想を目指し、人事交流を進めました。また、回復期リハビリテーション病棟を新設し、脳卒中医療の病々連携体制の構築を進めました。さらにその後、名古屋大学の先輩である堀田饒先生のご尽力により先生の後任として中部労災病院の院長に就任いたしました。ここでは脳神経外科医療の充実と地域医療支援病院として地域の行政、医師会、医療関係者に協力を依頼し運営委員会を立ち上げ、地域医療の向上、救命・救急医療の充実に関与しました。

### 生涯の友との出会い

当院長の小林先生とは研修医として医療人生を共にスタートした友であり、互いに将来の夢を語り合った仲間です。先生はその後、東京の国立がんセンターのレジデントとして研鑽され、消化器外科の専門医として名古屋に帰ってこられました。そ

して昭和55年に12床の大口外科クリニックを開設されました。その後は30年以上、情熱と努力をお惜しまず、救急医療から始まり、歯科口腔外科（デンタルセンター）、脳神経外科（脳卒中、脊髄・脊椎センター）、総合リハビリテーションセンター、そして最近ではハートセンターと次々に新しい医療体制を立ち上げ、さくら総合病院を構築されました。さらに医療から介護そして福祉へと連携する総合福祉センターも創立されています。地域における民間病院としては、まさに患者・市民中心の医療、健康そして生活サービスを提供する類をみない施設として発展をとげておられます。私も今後はこれらの病院・施設において、小林先生の夢であり私にとっても医療人生の集大成として、さらなる発展に貢献していきたいと思っています。関係者の皆様方には、今後共、ご支援、ご協力よろしくお願ひします。

## ごあいさつ

消化器内科 上田大輔

本年度4月より、消化器病センターに消化器内科として赴任いたしました上田大輔です。

生まれも育ちも北陸福井県で、出身大学・初期～後期研修病院も全て福井県です。冬になれば当たり前のように雪が積もり車が埋もれ、晴れの日がほとんどなく常にどんよりとした日本海側気候です。半年間だけ兵庫県立がんセンターにて研修を行いました。基本的に生まれてから住民票は福井県の県境を越えることのない人生でした。初めての太平洋側での生活になり、雪も積もらない(降らない?)・冬なのに晴れているという確実に日本海側と気候・風土の違う生活に戸惑うこともあるでしょうが、妻と乳飲み子とともに少しずつ慣れていこうと思います。チャンスがあれば櫃まぶしを堪能したいと考えていますのでお勧めのお店があれば是非教えてください。

専門は消化器内科の中でも内視鏡を専らとしています。前任の杉田玄白記念公立小浜病院では一般内科の診療を行いながら、通常内視鏡業務だけでなく緊急内視鏡検査・処置も自分が遠方にいるとき以外は全て携わり、自分の経験となるべく行ってきました。さくら総合病院は通常内視鏡検査は火・木・土ですが、救急外来や他科外来・病棟より緊急で内視鏡検査が必要な症例がありましたら時間や曜日に関わらず可能な限り、コメディカルのみなさんの協力を得ながら検査・処置を行っていきたくと考えています。夜間でも自分は下戸ですので酔って来院不能となることはありません。また、急ぎではなくても内視鏡検査が必要と思われる症例や、抗凝固療法・ストロイド投与開始前スクリーニングなどもセンター外来へ紹介いただければ幸いです。

自分自身は消化器内科といってもまだ内科認定医しか取得してない状況です。消化器病専門医、消化器内視鏡専門医取得に向けてまだまだ修行中の身ではありますが尾北地域の皆さんの消化管の健康に寄与できるように努力していく所存ですのでよろしく願いいたします。



## 患者図書室『さくらの森』開設のお知らせ

「自分の病気の説明を聞いたけれど、よくわからない・・・」

そんな患者さんの声にお答えするため、

NPO「医療の質に関する研究会」のご協力のもと、  
患者図書室『さくらの森』がオープンしました。

場所 ……………脳卒中脊椎脊髄センター横  
開室時間 ……………月～金 9時～12時、13時～17時  
サービス内容 ……医療図書・一般書の閲覧・貸出  
図書に付属するDVD 閲覧  
当院の制作DVD 閲覧  
パソコンを使用した医療情報検索  
iPadの図書室内貸出  
医療パンフレットの配付



閲覧利用 ……………どなたでも可  
図書貸出 対象者…入院患者とご家族、職員  
(ただし、持ち出しは院内に限る)

図書貸出利用 ……1回2冊まで 期間は7日間

とてもつるげる雰囲気の図書館です。  
是非、ご利用ください。

# 第5回 さくら総合病院市民公開講座

## 「地域のために総合病院ができること」

5月18日(土)

受付13時～ 開始14時～2時間程度

場所 大口町 町民会館

参加費無料、事前申込不要

飲み物を無料配布致します！

血圧・血糖測定コーナー、栄養相談コーナー、

福祉用品の展示も行います！

是非、ご参加ください。



—会場屋外にて救急車の展示を行います—  
めったに見られない救急車の中もご覧いただけます。  
担当職員がご質問にもお答えします。



講演内容 : 1. 開会の挨拶  
2. 就任の挨拶  
3. 骨粗しょう症について

院長 小林 勝正  
名誉院長 吉田 純  
副院長 秦 誠宏  
薬剤科 千田 修弘  
栄養科 馬場 千尋

4. 大口外科クリニックから  
さくら総合病院までの歩み  
5. 閉会の挨拶

院長 小林 勝正  
副院長 小林 豊

行きのバス : さくら総合病院より大口町民会館への臨時バスを運行します。

コンドル館入口より

13時15分発

13時30分発



お帰りのバス : 大口町コミュニティバス

南部ルート 布袋駅方面 16時21分発

北部ルート 柏森駅方面 16時23分発

基幹ルート 柏森駅方面 16時45分発

さくら総合病院巡回バス

講演終了後、桑田方面へ参ります  
駅までの道のりでしたら、  
途中下車も可能です。

主催 : さくら総合病院 後援 : 尾北医師会 大口町 扶桑町

お問い合わせ : さくら総合病院 市民公開講座 事務局 0587-95-6711 (代表)

ホームページ : <http://www.ijinkai.or.jp> メール : [koukaikouza@ijinkai.or.jp](mailto:koukaikouza@ijinkai.or.jp)

